

the COMMUNICATOR

特集号

心と心、世界と日本を結ぶ*コミュニケーター

特 集

平成20年度 日欧高校生交流プログラム

【短期】平成 20 年 6 月 29 日 (日) ~ 平成 20 年 8 月 3 日 (日)

【長期】平成 20 年 8 月 17 日 (日) ~ 平成 21 年 1 月 7 日 (水)

欧州の高校生が来日し、ホームステイと高校生活の体験をしている。生活を通して異なる文化的な溝を埋めるのがいかに大変か、まさにそれは人と人とのぶつかり合い。その中で同じ人としての共感を見出し、違いをわかり合う国際理解活動の大切さを、その最中にある方々の姿を通してお伝えする。

◇

欧州男子高校生受入ホスト夫人より

●初めてホストファミリーに

「ホストファミリーになってくださいませんか」と IFA からお話があったのは、大学生の娘の留学を1ヵ月後に控え、準備で忙しくしている時でした。丁度彼女の部屋が一つ空くこと、高1の息子にとって国際交流の良い機会であることを考え、お引き受けいたしました。ただ、IFA が希望される4ヵ月間は、初めてのことで不安もあり、家族の生活や仕事(自宅で小中高生に英語を教えている)との兼ね合いも考え、責任を持ってお引き受けできるのは約2ヵ月とお返事しました。

いざ受け入れ準備を始めてみると、食事のこと、生活習慣のことなど、どうすれば留学生が気持ちよく過ごせるだろうとあれこれ気になります。幸いホストファミリー経験者の友人がいたので相談すると、「彼は日本の生活を知らなくて来るのだから、普段どおりに生活すればいいよ。ベッドがなければ布団でいい。食事もお食べられないものだけ聞いて、あとはいつもどおりでいい。イギリスに留学して日本食を出されても嬉しくないでしょう」と言われました。なるほどと納得しました。

また日本古来の文化についての知識が浅く困っている私に、「あなたが今誇れるものを紹介すればいいよ」とのアドバイス。私の誇れるもの…、それはまさしくこうして親身になってくれる友人・家族、また留学生を歓迎したいと楽しみにしている生徒達だと気づきました。こうした私のまわりの人々を紹介し、日本人の良さを知ってもらいたい。彼らの助けを借りながら、この2ヵ月を楽しもうと思いました。

●案ずるより産むが易し

娘を米国に送り出した翌日、イファン(IFAN:仮称)がやってきました。物静かで、あまり表情の変わらない穏やかな青年です。彼はとても優秀で日本語を流暢に話せ、メールも日本語でやりとりできます。何より日本の若者文化が大好きで、アニメ・マンガ・J-POP・ドラマと、何でもよく知っていました。息子とも教室の生徒達ともすぐに打ち解け、わが家でのウエルカムパーティーでは、みんな自分のお勧めのマンガやCDをイファンに紹介し、貸してあげていました。また、彼は大の和食党で私の作るものは何でも喜んで食べてくれます。お寿司はもちろん、お好み焼き、たこ焼きも大好物になりました。朝食はご飯・納豆・味噌汁。毎日デザートに大福やお団子をほおぼり幸せそうです。彼の影響で私たちも和菓子党になりました。ほぼ日本語でコミュニケーションを取れるので、ご近所のおばあさんや、スーパーの店員さんとも仲良しに。友人や生徒の家族に案内してもらい、街中見物も楽しんでいます。

●雨降って地固まる

それほど日本語が流暢に話せるイファンですが、学校生活が始まり、毎日お弁当を作って手渡しても何故か「ありがとう」の一言を言ってくれません。返すときも一言もなく、さすがに1週間その状態が続くと参ってしまいました。どうしたら感情的にならずに気持ちを伝えられるか。適切な英語で説明しようと考えあぐねた末に、『ありがとう』は魔法の言葉。皆、一言言ってもらおうと嬉しくなり、もっとあなたに何かをしてあげたくなる。誰かに何かをしてもらったら、必ず言ってね」と言いました。「そんなにたくさん言わないといけませんか？」とつぶやきながらもすぐに理解し、翌日からは、「ありがとう」「ごちそうさま」と言ってくれています。

またある時、他の生徒が先生に対して「ため口」をしているので、自分も皆と同じように言ってみようと言いだ



オリエンテーションのワークショップ「やっていいこと悪いこと」を考える

しました。その少し前から、朝、息子を真似て、イファンが「おはよう」と私に言うようになり、どこか違和感を感じていた矢先です。息子の友人が泊まりにきた時は、「おはようございます」と言ってくれます。「あなたの立場は息子の友人と同じ。親しくても礼儀を尽くす方がよい印象を与える」と話しました。イファンは言葉を短くする方が、親しみを表現できると思っていたようです。先生方にも礼儀正しくあってほしいと私の気持ちを伝えました。

文化的違いを感じたのは、一緒にテレビで特攻隊の番組を見ていた時です。ある老齢の婦人が、恋人の形見として煙草の吸殻を大切に保管している場面で、彼が急に「It's funny (おかしい)」と笑い出したのです。息子と私はびっくりし、頭に血が上ってしまいました。どうしてここで笑えるのか全く分かりません。これはきちんと話さなければいけないと思いました。「母国ではあんなものは遺品にしない。指輪かネックレスだ」と言うイファンに、「あなたにとってつまらないものでも、あの人には宝物。相手を思いやる気持ちが大切で、こうした場面で笑うのは日本文化を侮辱しているように思われるかもしれないから注意が必要。おかしいと思っても笑わずに、なぜですかと聞けばいい」と話しました。彼にも言い分があり、その後かなりの時間話し合いました。これはとてもよいきっかけで、その日を境に思っていることを互いにきちんと言葉で伝えるようになり、ストレスがなくなりました。愛情を持って話せば必ず気持ちは伝わります。本当の家族のように過ごしている今、別れの日を思うと寂しくなります。

交流 レポート

ホストファミリーの思い

●本国から宿題が多く届く

大学受験を控えているようで、毎週のように本国のクラスメートから宿題が届いています。日本の高校生活は朝早くから午後までの授業、部活も夕方まであり、加えて土曜日にも授業があります。日本語による授業についていくのも、かなり勉強が必要です。現状、日々、疲れがたまり家族との会話もままなりません。

◆IFAとしては、今後の課題として、本国の宿題や大学受験の勉強が必要な期間と来日が重なる場合は、本プログラムの参加は難しい旨、人選を行う各国の大使館に申し入れをしていきます。



近隣の史跡に案内するホスト夫妻

●我慢をし過ぎている様子

家族として接しているのに、体調が悪そうだったり、困っている様子なのに、尋ねても、「大丈夫」と言うだけで、なかなか心をうちあげてくれません。もっと甘えてくれてもいいのに。

◆性格にもよりますが、一般的にヨーロッパでは自分のことは自分で判断するという姿勢が身につけており、相談するということが日本よりは少ないです。ただし、IFAでは、自分の家族だと思って何でもホストファミリーに相談するようにと話しています。少し時間はかかりますが、何度も声をかけてくださると有り難いです。

また、病院に行ったほうがいいと思われる場合は、本人に「日本の親として、行った方がいいと思う」と話し、本人の同意を得て、連れて行っていただきたいと思えます。

●パジャマは自分で買わせていい

パジャマをもってきてないようなので、声を掛けて近所の手ごろな店に連れて行き選ばせました。自分で支払う様子を見せないで、こちらで払いました。その後もお金のことを何も言っていないのですが、ホストファミリーが支払うのでしょうか。

◆そうした日用品は本人が支払います。ただし、本人が必要ないと思っている場合やホストファミリーからのプレゼントと考える可能性もあります。はっきりと、「これから寒くなり寝るときにはパジャマが必要なので、好きなものを買ってください」と具体的に話してはいかがでしょうか。あるホストファミリーは、「これは1,300円なので安いですよ。買いませんか」とその場で話しスムーズだったそうです。

●日本語のサポートはどのように

ホストファミリーとして日本語の勉強をどのようにサポートしたらよいのでしょうか。

◆特別なことはしなくて結構です。普段の生活で日本語を使っていたら、表現などでおかしなところは注意していただければ幸いです。生徒の中には12月に実施される、「日本語能力試験」を受験したいと希望して来日する者もいます。ただし、これは日本の学校生活の余力がある場合にすると本人たちには言っています。ある生徒は、夜、寝る前に必ず漢字のテストをして欲しいとホストファミリーに言うそうです。遅い時間やお疲れのときなど、できないときは「今日はできません」とはっきりとお願いしたほうがいいです。できる範囲のお手伝いをしていただくのと有り難いです。また、このプログラムでは日記を書くように指導しています。日本語でも英語でもいいとしていますが、本人が日本語でどのように書いたらいいかとお聞きしたときはご指導ください。

来日高校生の感じたこと

●文化の違いに驚く

◆地下鉄で混んでいるのに、私の隣には誰も座ろうとしなかった。

◆外人、外人と指差された。

◆水族館に行ったが、水槽が狭くて魚がかわいそう、ひどいと思った。

◆日本語を教えてくれる50歳くらいのボランティアの女性が、「女は料理とお裁縫ができないと、いいお嫁さんになれないわよ」と真剣に言われた。本国でそんなことを言う人は訴えられて警察に捕まる。

◆ホストファミリーの生徒にボーイフレンドはいるかと聞くと、高校は勉強の場所、男の友達はよくないと答えた。男女は自然に話していると思う。

◆ショック。男子と女子がほとんど会話を交わしていない。でも、家では女



体育祭で騎馬戦の馬に

子のことを聞こうとする。学校で女子に聞かれないように話すときはトイレに誘われた。なるほど、紳士なのだ。表面は違うけれど家では同じ、僕たち男子の興味はどこでも同じだった。

◆8月30日、一人で街中に出かけた。少し寂しかった。道に迷ったけれど誰とも話せなかった。まだ日本語ができないし、日本人がこんなに英語が話せないとは思わなかった。ちょっと途方にくれた。

◆お父さんの誕生日だった。私が一番驚いたのは、お父さんがプレゼントをその場で開けなかったこと。それが日本の習慣の一つとは聞いていたが、誕生日にまでそうだとは思わなかった。

●感激したこと

◆9月1日、きょう私の新しい高校へ行きました。ちょっときんちょうしたけどとてもたのしかったです。きょうしつに入ってみんなの前に立つ時にみんなは、「かわいい!!!」とっていました。びっくりしたけどよかったです。この高校でいるとこの四ヶ月はすばらしい時だと思えます。

◆体育祭があります！わああ、すごく大きいな！きばせんをやりました。全部のグループ（1年生+2年生+3年生）人形を作りました。その人形はすごく美しかったです。たのしかったです！

◆ついに学園祭の日だった。私たちのテーマは「世界のアイスクリーム」。各国の民族衣装（ゆかた、中国服 etc.）を着て、私はオーストリアの衣装。たくさんのお客さんが私と一緒に写真をとって話しかけてくれました。

◆今日はすばらしかった。物理で何をやっているのかわかってきたし、新しい漢字もうまく書けた。そして私の周りで聞こえる日本語を理解できるようになったと感じた。

◆今日はおおりのちゃんの結婚式。トテモ楽しかった。かおりちゃんはちょうきれいでした。やっぱりかおりちゃんと同じような結婚式がほしいね。でもまだ若いんです。